

1. 明石への空襲

明石には、1945年（昭和20年）に6回の空襲がありました。

		飛行機数	投下爆弾	死者	行方不明	主な被災場所
第1回	1月19日	62機	500ポンド爆弾 610個	322人	5人	川崎航空機周辺 大蔵・大久保にも被害
第2回	6月9日	24機	4000ポンド爆弾 72個	644人	12人	明石公園周辺 南船上にも被害
第3回	6月22日	26機	4000ポンド爆弾 74個	28人	33人	川崎航空機周辺
第4回	6月26日	31機	4000ポンド爆弾 92個	142人	7人	公園前・鷹匠町・3番町
第5回	7月7日	124機	M69焼夷弾 4,875個	360人	7人	明石駅周辺
第6回	7月28日	3機	500ポンド爆弾 2個	0人	0人	明石川水管橋付近

出典：明石市史編さん委員会編「明石の空襲-米国戦略爆撃調査団報告書から-」
 明石空襲の碑をつくる会「明石の空襲」
 明石市史「現代編Ⅰ」

備考

- 【第1回】本格的な空襲としては関西初でした。
- 【第2回】曇天のため目視をせず、レーダーの情報だけで目的地を決定して爆弾を投下したため、標的でない明石公園周辺に着弾し、市街地に大きな被害が出ました。
- 【第5回】広く市街地を狙った焼夷弾による攻撃で、市街地のほとんどが焼失し、多くの市民が犠牲になりました。

※ アメリカ軍の記録には、5月21日にも攻撃を行った記録があります。



1945年（昭和20年）1月20日発行 神戸新聞

2. 明石公園の空襲被害

○戦時中の公園内

公園事務所は憲兵隊に接収され、兵舎や留置場になりました。公園内の平たい場所は、すべて畑となり、池には水稻が植えられました。また、野球場は、全面芋畑になりました。児童遊園（現陸上競技場）は軍の物資集積場、外堀の一部は貯木場として使われました。そして防空壕が園内 30 か所設けられました。（うち公共防空壕 23 か所、一般防空壕 7 か所）

○空襲被害の様子

第 2 回（6 月 9 日）は、公園内の剛ノ池、三笠山、山里などに避難していた人たちに爆弾の雨が容赦なく降り注ぎました。爆撃は計 3 派に及び、7～9 機編隊で無差別攻撃が続けられ、500 キロ爆弾を含め約 60 発が投下されました。公園内での死者は 269 人。学徒動員された女子工員が多かったといわれています。

第 4 回（6 月 26 日）には、500 キロ爆弾 1 発が児童遊園東南の道路に落下しましたが、人身被害はありませんでした。

第 5 回（7 月 7 日）、園内に避難していた消防自動車、乗用車、貨物自動車など約 200 台が炎上しています。

第 2 回、第 5 回の空襲で、明石公園は市街地同様ほぼ焼け野原となりました。三笠山の樹木は途中で折れるなどなぎ倒され、現在の県立図書館一带は、爆撃による大きなくぼみがあちこちに点在していました。児童遊園の壁などには、機銃掃射の傷跡が残っていました。

出典：「明石公園百年史」「歴史の証人 明石公園」

終戦直後の様子

写真①：明石城付近写真



写真②：旧明石市役所（現：本町）付近



写真③：旧明石警察署

（現：樽屋町）付近



写真④：大観橋付近から国道 2 号線



写真：明石市史編さん委員会編「明石の空襲-米国戦略爆撃調査団報告書から-」